

JICA 中国事務所ニュース

2010年1月号

【トピックス】

- ◎ JICA 中国事務所長より新年のご挨拶 2

【ニュース】

- ◎ 「権利侵害責任法」の成立 2
◎ 2010年新年エコ天使コンサート 3
◎ 計画生育委員会との合作、寒さも吹っ飛ばす「家庭保健セミナー」 4
◎ 日中環境協力共同研究の第1回国際会合が実施されました 5
◎ 民主党議員団が日中友好環境保全センターを訪問 5
◎ NGO サロンに参加しました 6

- 【寄稿コーナー】 7

- 【帰赴任者紹介コーナー】 8

- 【中国酷 China Cool!】 9

中国各地の新年の様子



厳しい寒さの中の中国東北長白山



返還されて10周年になったマカオ

* お知らせ:

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

メールアドレス: shenxiaojing.cn@jica.go.jp

- <http://www.jica.go.jp/china/office/library/news/index.html> (中国事務所ニュース)
- <http://j.peopledaily.com.cn/xielidui/xielidui.htm> (ボランティア活動)
- <http://searchina.ne.jp/jica> (サーチナJICAページ)

新年挨拶

2010年明けましておめでとうございます。
北京は寒波と大雪のお正月でした。

今年中には中国は日本を抜いてGDP世界第2位になるといわれています。既に昨年でも中国のGDPはアフリカ全体のGDPよりはるかに大きく、新車販売台数世界一、また日本の貿易・投資相手国としても第一位を占めています。他方人口ももちろん世界一でGDPも人口で割れば日本の十分の一、貧困層も依然2000万人はいるそうです。この中国に対するJICAのこれからの協力については昨年末の緒方理事長の訪中報告において

- ① これまでの協力の成果及び協力を通して築いた中国との信頼関係を維持・発展させ十分に活用すること
- ② 重点分野としては環境・制度整備・相互理解
- ③ 途上国支援に関する両国の情報共有・経験交流

と整理されています。

今年も中国の安定した発展に寄与するとともに、日中の友好促進に資するよう引き続き事業に取り組んでいきたいと思っております。

(JICA中国事務所長 山浦信幸)

ニュース

「権利侵害責任法」の成立 ～JICAも制定を支援～

昨年12月26日、中華人民共和国権利侵害責任法(以下「権利侵害法」といいます)が第11期全国人民代表大会常務委員会第12次会議を通過し、成立しました。本法は、2010年7月1日から施行されます。

私が派遣されている「民事訴訟法・仲裁法改善プロジェクト」では、名称のとおりプロジェクト開始以降民事訴訟法と仲裁法の改正に関する協力を中心に行ってまいりましたが、カウンターパートである全人代常務委員会法制工作委员会(以下「法工委」といいます)の要請により、喫緊の立法課題であった権利侵害法についても昨年の夏以降協力を進めて参りました。

権利侵害法は、日本では不法行為法と呼ばれる法分野で、日本では民法の一部を構成するものです。

今回の権利侵害法は単独の法律として成立したのですが、中国でも将来的には既存の民事実体法を統合して統一的な民法典を

制定する検討が行われており、もし民法典が成立すれば権利侵害法も民法典の一部として取り込まれるものと思われます。

当プロジェクトでは、権利侵害法に関する協力としては、昨年7月に現地セミナーを1回、昨年11月に本邦研修を1回実施し、研修参加者(法工委や最高人民法院から参加)に対して日本法に関する状況について詳細に説明するとともに、草案段階であった中国の権利侵害法に対して詳細なコメントを行いました。

もとより権利侵害法のような民事実体法は、民事訴訟法等の手続法以上にその国の文化・社会的背景を濃厚に反映するので、成立した権利侵害法もまた中国的特色を多分に有するものですが、当プロジェクトを通じて法工委に紹介した内容は少なからず法工委の立法作業に役立ったものと考えます。

権利侵害法は、当プロジェクトが関与した中で実際に成立した初めての法律ですが、こ

のように中国の根幹となる法律について日本による支援を行うことができた点は、日中の法制史においても極めて重要な意義を有するのではないかと思います。

今年は、民事訴訟法と並んで国際私法分野の協力も開始することを計画しておりますが、こちらも中国の方はもとより、中国在住

の日本人や日本企業にも大きな影響のある分野であり、より一層緊密な協力を進めていきたいと思っております。(長期専門家 住田尚之)

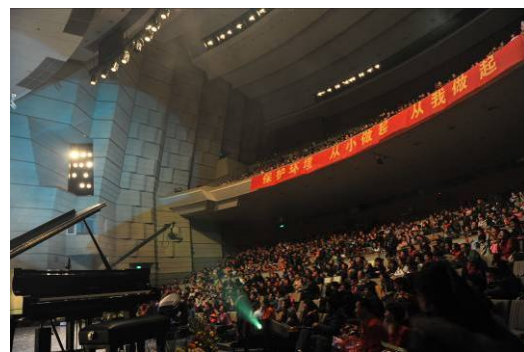
* 本プロジェクトでは権利侵害法の日本語訳を作成しました。ご希望される方は事務所担当大久保所員までご連絡ください。

2010年新年エコ天使コンサート



エコ天使コンサートで活躍する日本人学校6年生

2009年12月18日夜、「日中青年交流センター(無償資金協力により建設)内の世紀劇場で、日中友好環境保全センター内の環境保護部宣伝教育センター主催、JICA、国連開発計画(UNDP)が連携・協賛する「2010年新年エココンサート」が開催されました。このコンサートは時代に授けられた使命と責任を担って、人々が自然と調和を保ち暮らすこと」をテーマとする自然環境保護における市民啓発活動の一環として行われたもので、北京市の幼稚園から中学校までの合計8校の子供たちが参加し、中国初のコンサートでした。また、循環型経済推進プロジェクトとしても、本格的に他の国際機関と連携した初の活動でした。中国の子供たちの演目は環境を意識したものでどれもプロ並みのすばらしい演技でしたが、外国人として唯一参加した日本人学校の小学校6年生全員による合奏



熱気あふれた会場

の「情熱大陸」も更にすばらしく、迫力と感動がみなぎっており、満場の観客から大きな拍手をいただきました。出演した6年生も、気持ち良く、楽しい演奏ができたようです。日本の小学生たちは、イベント当日には昼のカメラリハーサルや舞台化粧の初体験などが続いたことから、大興奮のうちに本番を迎え、イベントが終わる21時半までフルに頑張ってくれました。JICA事務所や多くの関係者の方々も夜遅くまで裏方に徹して協力してくださり、大成功を収めることができました。このイベントは、循環型経済推進プロジェクトにおける「サブプロジェクト2—国民の環境意識向上」の活動の一環として実施されましたが、このような活動を通じて、更に多くの人たちが環境を意識し、より環境に優しい社会が構築されるよう努めていきたいと思っております。

(チーフアドバイザー 立場正夫)

計画生育委員会との合作、寒さも吹っ飛ばす「家庭保健セミナー」



セミナー会場は参加者の熱意でポカポカに

中国の保健行政は主に衛生部傘下の「衛生系統」と国家人口計画生育委員会（計生委）による「計生系統」の2つのネットワークから構成されており、それぞれの特徴を生かして住民に保健医療サービスを提供しています。なかでも、計生委は「一人っ子政策」に代表される人口・計画生育業務の推進のため、郷・鎮、村など住民に近い末端レベルまで強固なネットワークを有しており、その関係者は全国で1億人規模にのぼります。

JICAでは今回、年の瀬も迫る12月17～19日の3日間、計生委とともに「日中技術協力・中西部地区リプロダクティブヘルス・家庭保健サービス拡大セミナー」を開催しました。計生委では近年、自分達の抱える技術と豊富な資源を生かし、従来の人口・計画生育から「思春期保健、母子保健、中高年保健」へと業務の幅を広げています。特に、保健医療体制が脆弱と言われる中西部農村地域で、「健康教育、健康診断、健康相談」の3種類のサービスを提供することに注力し、農村住民の健康増進・予防に貢献しています。

JICAでは2009年3月までの3年間、この活動を「家庭保健サービス」と名づけて技術協力プロジェクトを実施してきました。今回のセミナーはプロジェクト終了後の普及・拡大の進展を確認し、各省の技術交流を促進することが目的。日本から国立保健医療科学



輝かしい笑顔の計生委スタッフ（重慶市）と

院国際協力室長の兵井信行氏をお呼びし、各地域の活動計画・管理の向上を目的として、PCM手法の講演を行いました。また、中国疾病予防コントロールセンター（CDC）で活動中の高橋謙造専門家には、世界でも特徴的な日本の感染症予防の経験をお話いただきました。

セミナーには全国20省から計生委関係者120名以上が集結！各地域の活動報告では、プロジェクトで得た知見をさらに発展させて、省の方案を制定したり、収入向上といった自己資金増に結びつけたという話もあり、報告者の自信に満ち溢れた表情が印象的でした。かつて李白が10年に亘って詩を吟じたという湖北省安陸市の山奥での今回の合宿型セミナーは、参加者の熱意、勢いで寒さも吹っ飛ばすセミナーとなりました。

計生委からは今年度、後継案件となるプロジェクトの新規要請を受理しています。今回のセミナーで得た情報を新規プロジェクトのデザインにつなげていけるよう、事務所でも参加者の熱意に負けず、頑張っ

て参ります。
（所員 小田遼太郎）

日中環境協力共同研究の第1回国際会合が実施されました



日中環境研究者の意見交換

12月22日、日中の研究者が集まり日中環境協力共同研究の第1回国際会合が実施されました。本事業は財団法人日本国際フォーラムと中国環境保護部が共同で実施しているもので、本共同研究により、廃棄物対策における日中環境協力の方向性を導くことが期待されています。また日中両国の環境分野研究者間の協力、連携が促進され、その研究成果が、日中両国、ひいては類似の課題に直面する他のアジア諸国の課題解決にも寄与することが期待されています。

今回日本から成蹊大学名誉教授の廣野良吉先生を主査とする4名の研究者が訪中

し、JICA 中国事務所からも私が共同研究のメンバーとして会合に参加しました。中国側からも同様に5名の研究者が集まり意見交換を行いました。その中で中国側より現在中国では経済成長と同じスピードで廃棄物が増加しており、解決に困難を抱えていることが紹介されました。それに対し日本側から、日本は廃棄物対策に様々な経験を有しており、共に解決方法を考え協力していくことが日中双方の利益、友好の促進につながることから本事業を必ず成功させたいという強い意志が示されました。

本事業は2月8日に東京にて約100名の入場者を募り、第2回国際会合としてシンポジウムを実施することになっています。そこで日中双方の研究者が研究成果の発表を政策関係者や市民に対して行うとともに、意見交換を行うことになっています。こうした取り組みが日中環境協力への理解を深めることに繋がればと考えています。この共同研究事業が実り多いものになるよう引き続き努力してまいります！

(企画調査員 木下真人)

民主党議員団が日中友好環境保全センターを訪問



李副部長(中央右)と山口議員を囲んで和やかに交流が行なわれました

昨年12月11日に、衆参両議院の民主党議員団が日中友好環境保全センターを訪問

し、国家環境保護部(MEP)の李干傑副部長を始めとするMEP・環境保全センターの要人と会談しました。

この議員団の訪問は、昨年9月に日本の政権与党となった民主党の、中国共産党との交流事業である「大長城計画」の一環として行なわれたものです。この日は、訪中した民主党国会議員143名が分野ごとに分かれて北京市内を視察しましたが、その内、山口壯衆議院議員を団長とする24名が環境グループとして環境センターを訪れました。

李副部長からは冒頭、80年代から続く日本による対中環境協力に対し謝意が述べられ、

JICA が多くの専門家を派遣することで、その中心的な役割を担ってきたと述べました。議員団からは、そのような日本への高い評価に対し逆に感謝する声や、気候変動対策で協力を強化すべきという意見が述べられました。また、議員団から中国における家庭での環境教育や、NGO等の民間団体の環境保護への取り組みに関し質問が出され、李副部

長から具体的な取り組みが紹介されました。その後議員団は環保センター内の施設を見学しました。

現場を見ることで日中の環境協力がしっかり行われていることについての理解がさらに深まったのではないかと思います。

(所員 大久保晶光)

NGO サロンに参加しました



草の根技術協力を中心にプレゼン

12月28日、北京東珍納蘭文化傳播センター(NGO)が主催する NGO サロンが市内西部の「奇遇花園カフェ」で開かれました。中国の NGO、大学生、記者に加え、北京訪問中の早稲田大学国際教養学部阿古智子ゼミの学生など 30 余人がこの穏やかなカフェに集まり、発表に耳を傾けました。

同サロンは東珍が設けた NGO 間の情報交換・経験交流の場であり、今後もシリーズ的に開催します。毎回違うテーマを設定して、NGO 関係者、国際的な専門家及びジャーナリストなどをお願いして、異なる角度から深みのある事例紹介や分析を行ってもらうとのことです。

今回のサロンは第一回目であり、テーマは貧困対策でした。北京東珍の責任者李丹氏、北京農家女文化發展センター(農家女)プロジェクト担当者崔宏亮氏、「中国新聞週間」記者田乾峰氏及び JICA 中国事務所岡田次長・周妍所員がそれぞれ発表を行いました。

岡田次長・周妍所員からは対中 ODA の概要及び中国で展開している JICA 事業を紹介



発表に耳を傾ける参加者たち

し、特に NGO との関係の深い「草の根技術協力事業」のプロジェクト事例(植林事業や障害者支援など)を DVD などを活用しつつ、詳しく報告しました。崔宏亮氏は生き生きとした事例を用いて、農家女が西部地域で展開している非識字者支援事業を分かりやすく紹介しました。また、田乾峰氏はメディアの立場で貧困者支援を解説し、メディアと基金会社が連携して貧困地域で扶貧事業を展開するという新しい形を示してくれました。

今回のサロンは日中の大学生や、現地メディア、一般市民に対し、中国の草の根で展開している JICA 事業を理解してもらいたい機会となりました。

(NGO-JICA ジャパンデスク 周迎)

寄稿コーナー

ふたつの任地 ～青年海外協力隊からの報告～



熱心に授業をする花田隊員

■残り3ヶ月での任地変更

2年間の任期も残すところあと3カ月という時期に、私は今の任地、吉林省白城市に赴任しました。今年の7月までは、新疆ウイグル自治区ウルムチ市の新疆農業大学で活動していたが、ウルムチで暴動が起こったために、任地変更を余儀なくされたのです。

ウルムチの町も人も食べ物も大好きだったので、この任地変更は、私の意思に180度反するものでした。でもこの任地変更があったお陰で、今の任地や配属先、同僚、学生に出会うことができたのです。

今は心から、白城へ来られてよかったと思っています。

■白城市へ来て

ここ白城市は別名「風城」と呼ばれています。とにかく風が強く、現在日中は-10°C前後で、日が照る日は心なしか暖かく感じられる程度です。風が強いから肌の露出はできません。外出する時は、顔をマフラーで覆ったりマスクをしないと、強風で顔が凍りついてしまいます。

町の規模は、ウルムチと比べるととても小さいです。繁華街と呼べる場所は一つしかありませんし、どこでも2～3元(≒40円)で行っ



学生達に囲まれた花田隊員(前列左から5人目)

てくれる3輪車がたくさんあるので、5元のタクシーが少し高級に思えるほどです。ウルムチでは日本食材がデパートで買えました。日本料理のレストランも2軒ありましたが、ここにはカレーくらいしかありません。でも、必要なものは大体手に入りますし、物価も安いので、生活は快適です。

■私の配属先

内モンゴル自治区との境界に近いですが、モンゴル族はそんなにおらず、漢族が多いです。満族や朝鮮族もいます。大学の食堂では、石焼ビビンバやトッポギが食べられますし、学生がお土産でくれるキムチもとてもおいしいのが嬉しいです。

私の今の配属先は、白城師範学院外国語学科です。日本語専攻の1～3年生に日本語を教えています。学生はみな積極的で、非常に熱心に日本語を勉強しています。ウルムチでもそうでしたが、日本のアニメが好きな学生が多いです。彼らの多くは、日本に留学する夢を持って、今一生懸命頑張っています。

■新たな出会い

ウルムチでの活動が続けられないと決ま

った時は、本当に悔しくて、なかなか気持ちを切り替えることができませんでした。「まだまだできることはあったのに…」と、自分を責め、後悔ばかりしていました。

でも、白城での新たな出会いが、私を前向きにさせてくれました。同僚との他愛もないおしゃべりや、学生との交流が本当に楽しいです。

いつも私に元気をくれるのは学生たちです。彼らと出会えたことを、心から嬉しく思っています。

あの暴動の直後、私の「当たり前の日常」は突然終わりました。そして、毎日を本当に悔いのないように生きることの難しさを思い知りました。

何でも「次」があると思って先延ばしにしたら絶対に後悔する――。

この教訓を胸に刻んで、私は今、残り少ない任期を精一杯過ごしているところです。

※本記事は帰国前の12月に執筆いただいたものです。

(19年度3次隊 吉林省白城市 白城師範学院 日本語教師 花田藍子(福岡県出身))

帰赴任者紹介コーナー

21年度3次隊のみなさんが到着しました

今月5日に21年度3次隊の青年海外協力隊及びシニア海外ボランティアの18名のみなさんが北京に到着しました。北京では3週間にわたり、より実践的な中国語研修を受講したり日本大使館などの関係機関への表敬訪問などを行ったりします。26日にはそれぞれの任地へ旅立ち、2年間の中国での生活がスタートします。



■ 青年海外協力隊
(日本語教師)

川染有 黒龍江省鶏西市鶏東県
鶏東県朝鮮族中学

山崎望未 遼寧省大連市
大連市第三十中学
風間珠美 遼寧省撫順市
撫順市朝鮮族第一中学
高須こずえ 吉林省梅河口市
梅河市朝鮮族中学
安田真人 内蒙古自治区フフホト市
内蒙古師範大学
飯田尚子 内蒙古自治区オルドス市
オルドス第三中学
若松真琴 湖北省黄石市
黄石理工学院
四辻可苗 安徽省合肥市
安徽中澳職業学院
高橋優貴 貴州省貴陽市
貴州民族学院
(理学療法士)
山口聡美 内蒙古自治区牙克石市
内蒙古林業総医院
渡辺美里 江蘇省無錫市
錫山区錫北人民医院

(看護師)

大黒綾子 四川省成都市
四川大学華西病院

■シニア海外ボランティア

(ビジネスマナー)

垣内美恵子 遼寧省大連市
日中友好大連人材育成センター

(生産管理)

村瀬和夫 遼寧省大連市
日中友好大連人材育成センター

(中小企業診断)

阪井靖史 広西壮族自治区南寧市

広西生産力促進センター

(旅行管理)

細川利道 広西壮族自治区桂林市
桂林旅游高等専科学校

(テレビ番組制作)

光吉孝浩 広西壮族自治区桂林市
桂林旅游高等専科学校

(観光日本語)

森脇侑子 貴州省貴陽市
貴州大学

(ボランティア調整員 鈴木大介)

中国酷!

China Cool!

はい、お気づきの通り、ガスメーターです。写真は内蒙古自治区で実施中の円借款事業「包頭市大気環境改善事業」で調達を予定しているガスメーターの模型。よく見るとカードが刺さっています。これがプリペイド式カードで、チャージしたお金がなくなると、自動的にストップする仕組みになっています。

中国では既に全国レベルで普及しており、料金回収率の向上と、検針のための人件費削減に大きく貢献しています。

(所員 那須毅寛)



ガスメーターの模型



プリペイド式カード